

# 「静岡赤十字病院研究報」投稿規定

(2018年12月改訂)

1. 本誌は、総説、原著、症例報告、学会報告、各部門研究会記録、施設見学報告などを掲載する。原著と症例報告は、その内容が過去に他誌に掲載されたり（ただし、抄録のみの掲載は該当しない）、あるいは現在投稿中もしくは掲載予定でないものに限る。総説、原著、および症例報告の英文抄録は任意とするが、可能な限り論文要旨との併記が望ましい。日赤医学会総会での発表演題に関しては本誌への投稿を原則とする。
2. 発行は年1回、締め切りは10月31日とする（受付は通年）。
3. 投稿論文の作成においては、ヘルシンキ宣言（世界医師会）の科学的小説および倫理的規範を遵守する。なお、プライバシーや患者の権利の保護については、生物医学雑誌への統一投稿規定（医学雑誌編集者国際委員会）、ならびに「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」を遵守すること。引用文献・参考文献の記載方法は、「NLM style guide for authors, editors, and publishers」（参考URL: <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK7256/>）に準拠する。
4. 投稿原稿は複数の査読者の査読をへて、編集委員会で採否を決定する。審査の結果、編集方針に従って投稿原稿の改訂変更を依頼する。なお、文章表記等については編集方針に基づき、編集委員会が加筆、訂正を行う場合がある。
5. 初校は著者校正とし、原稿にない大幅な修正や加筆はしない。再校以後は編集委員会にて行う。
6. 投稿原稿は電子媒体とプリントアウトした原

稿を1部添え提出する。

7. 掲載した原稿は返却しない。
8. 論文提出時に投稿論文チェックリストも提出する。
9. 本誌に掲載された全ての著作物の著作権は、静岡赤十字病院に帰属する。静岡赤十字病院は、掲載される論文等の全体、もしくは図表などの一部を電子化して、本院が認めたネットワーク媒体、その他媒体で掲載することができる。医学論文は、原則として赤十字リポジトリに保存しネットワーク上に公開する。

## ■原稿の書き方

1. **言語**：日本語または英語とする。原稿は横書きとし、パソコン（フォントサイズ10～11ポイント、Word文書）を使用し、A4用紙に1ページ440字（和文：22字×20行、英文：半角46字、文字数22設定×20行）で作成する。外国語やアラビア数字は半角を用い、変換できない文字や記号は、手書きで明瞭に書き入れる。薬品名は一般名で書く。
2. **原稿の構成**：表紙、論文要旨、英文抄録（任意）、本文、文献、図表（説明記載）の順とする。表紙には、表題、著者名、所属、和文キーワード、図表の数、連絡先（住所、電話、掲載希望者はe-mailアドレス）を記入する。原稿には頁数を表紙から各頁最上段右に記入する。
3. **論文要旨**：460字以内。
4. **英文抄録**（任意）：英文タイトル・著者・所属および抄録・英文キーワード（A4用紙で300ワード以内）。
5. **キーワード**：5語以内
6. **本文**：常用漢字、現代仮名づかいを用い、楷書体で平易明瞭とする。原著は、緒言、対象

と方法、結果あるいは成績、考察、結語の順に、症例報告は、簡単な書き出しの後に症例、考察、結語の順に記述することを原則とする。総説はこの限りではない。各章の見出しはローマ数字（Ⅰ．Ⅱ．・・・）による番号付けをし、章の中の項目はアラビア数字（1．2．・・・）、項目以下の細分は、1)2)・・・を用いる。外国人、地名、雑誌名は原語を用い、活字体とする。数字は半角とし、それ以外のカンマ、ピリオド、括弧等は全角で統一する。

# I.

## 1.

### 1)

コンピューターの禁則処理を利用せず、英単語の途中でハイフンを用い、改行をすること。

7. **図・表**：本文とは別にして1枚ずつA4用紙に貼付する。モノクロ写真であること。図・表にはそれぞれタイトルをつけること。本文中にそれらの挿入場所を明示する、また図（写真）で患者名を特定できるような記載はすべて削除すること。

図（写真）は、ピントが合い鮮明なものを使用する。顕微鏡写真には染色法と倍率を明記する。電顕写真にはスケールを表示するバーを入れること。

8. **略語**：表題、論文要旨および英文抄録（任意）には略語を用いてはならない。本文中にしばしば繰り返される語は略語を用いて差し支えないが、初出の時は本文中にフルスペルで記載し、以下に略語を使用することを明示する。（例）迷走神経切離術（迷切術）

肝細胞癌（hepatocellular carcinoma；HCC）  
Computed Tomography（CT）

9. **枚数制限**：原稿の長さは、表紙、論文要旨、英文抄録、本文、文献、図表を含め、総説と原著では40枚以内（図表は20枚以内）、症例報告等では30枚以内（図表は10枚以内）とする。

10. **文献の書き方**：文献は本文中に順次に番号を付け（・・・との報告がある<sup>1, 2)</sup>。・・・である

<sup>1-3)</sup>。）本文の終わりに番号の順に従って列挙する。著者は3名までを記載し、それ以上は「ほか」「et al」とする。邦文雑誌名は医中誌Web、欧文雑誌名はMEDLINEの省略名に準拠する。電子文献の場合は、通常の引用方法に〔媒体〕、URL、アクセス日を加える。

（例）

- A. **逐次刊行物の場合**：著者名、論文題名、雑誌名（略称）、発行年（西暦）；巻号：ページ（最初と最後）。

- 1) 日赤太郎、静岡次郎、追手三郎ほか。静岡赤十字病院における黒字経営の研究。日赤医療 2000；92（5）：192-7.
- 2) Ohashi Y, Ohkura K, Yamada A. Cardiac Perforation after Pacemaker Implantation；Report of a Case. Kyobu Geka 2017；70（12）：1017-20.
- 3) Yamamoto T, Kobayashi Y, Ogura Y, et al. Delayed leg paraplegia associated with hyperextension injury in patients with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis (DISH)：case report and review of the literature. J Surg Case Rep, Fothcoming 2017.

※投稿中にてページが確定していない場合はForthcomingと記載する。

- 4) [オンライン文献]

Hilgendorf I, Swirski FK. Folate receptor：a macrophage "achilles' heel"? [Internet]. J Am Heart Assoc 2012；1（4）：e000091e004036. doi：10.1161/JAHA.112.004036. [accessed 2017-12-07]

- B. **図書の場合**：著者名、書名（編集者名）、発行地名：発行社名；発行年、ページ。

- 1) 行木英生、田中一郎。頭蓋底・顔面組織の一塊切除術と欠損部位の再建手技。頭頸部がんの境界における治療法の最新の進歩（犬山征夫監修）。東京：協和企画通信；1992。P.33-8.
- 2) Phillips SJ, Whisnant JP. Hypertnsion and

stroke. In : Laragh JH, Brenner BM, editors.  
Hypertention : pathophysiology, diagnosis  
and management. 2nd ed. New York : Raven  
Press ; 1995. p. 465-78.

### C. 非図書資料

- 1) Webサイト:サイト名[internet]. URL[accessed.  
yyyy-mm.dd]  
静岡赤十字病院[internet]. [http://www.  
shizuoka-med.jrc.or.jp/](http://www.shizuoka-med.jrc.or.jp/)[accessed 2017-12-01]
- 2) Webページ: 著者, タイトル[internet].  
URL[accecdd yyyy-mm-dd]  
Open Access Japan. 機関リポジトリ Archive  
[internet] [http://www.openaccessjapan.  
com/cat6/](http://www.openaccessjapan.com/cat6/) [accessed 2017-12-07]